

## SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	水上 大輝	学校名	堺市立浜寺石津小学校
実施学年	第6学年	教科	理科
単元名	生物どうしのつながり		

### 《学びを深めたいポイント》

大きなテーマとしては、ある程度タブレットを使うことができる学級であったため、発表ノートが紙のノートの代わりとしてどれほど機能するのかという検証もかねて、授業を行いました。


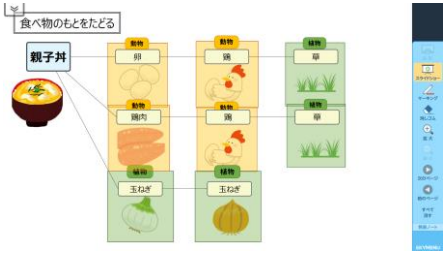
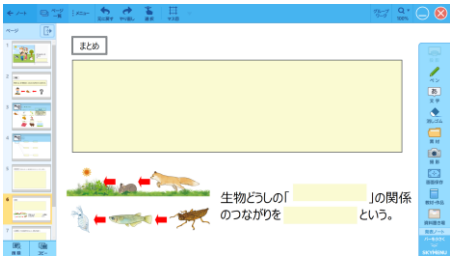
授業の内容としては、「生物どうしのつながり」という単元名の通り、生物どうしが「食べる・食べられる」という関係を通してつながり合っていることを実感できる教材があればと思い、身近な食べ物のもとを辿る活動を取り入れました。また、どんな食べ物も、もとを辿るとすべて植物に行きつくことを気づかせたいと感じ、調べた食べ物を動物や植物に分ける活動を取り入れました。これらの活動を視覚的、感覚的に学びを深める手立てとして、発表ノートのマッピング機能を使用しました。

### 《SKYMENU 活用のポイント》

今回の単元で最も重要な生物のつながりを視覚的にわかりやすく、かつ操作しやすくするために、発表ノートのマッピング機能を使用しました。マッピングである程度教材の型を作り、ツリー表示しておくことで、左端からスタートして、「食べる・食べられる」という関係を意識しながら食べ物のもとを辿ることができる教材ができました。

また、食べ物のもとをたどると、植物にいきつくというのを視覚的にわかりやすくするため、資料置き場には動物と植物の枠を用意し、その画像を食べ物や生き物に重ねるだけで、それらが動物由来か植物由来かわかるようにしました。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導 入	<p>1. 前時の復習</p> <p>・メダカだけでなく、ヒトも食べ物を食べて生きているということを確認する。</p>		
<p>問題:生物は食べ物を通して、どのようにつながりあっているのだろうか。</p>			
展 開	<p>2. カレーライスのもとをたどっていき、関わる生物を考える。</p>  <p>3. 身近な食べ物のもとをたどっていき、関わる生物をインターネットや図鑑等で調べてまとめる。</p> <p>4. 気づいたことを発表し、全体交流する。</p>	<p>・発表ノートのマッピングで以下の教材を作り、食べ物のもとを辿って、植物か動物に分類しました。</p>  <p>・自分の好きな食べ物などのもとをたどり、調べた内容を発表ノートにまとめる。</p> <p>・調べたものを動物と植物に分類する。</p> 	<p>・カレーライスを例に教材の使い方を一度確認しておくことで、次の活動をスムーズに進めることができる。</p> <p>・動物と植物に分類するときには、資料置き場に、動物の枠と植物の枠を入れておくと、視覚的に最後が植物になっていることがわかりやすい。</p>
ま と め	<p>5. 授業のまとめを確認する。</p> <p>6. ふりかえりを記入する。</p>		

## 《実践を振り返って》

今回は UD の観点から、使いやすさと視覚的なわかりやすさを両方兼ね備えた教材ができました。マッピングは国語などでイメージを膨らませる時に使われることが多いのかなと思っていましたが、今回のような、生き物などの「つながり」を意識させたい場面でも使うこともできるというのがわかりました。

紙のワークシートでは枠を増やしたり、減らしたりすることはできないのですが、発表ノートだと子どもが好きなだけ枠を増やしたり、減らしたりすることができるので、子どもの能力による時間差も減らすことができました。

今回の実践では、全体共有を黒板を使って行いましたが、「みんなの作品」や「ライブ提出箱」を使えば、みんなが調べたものを通して、食べ物がちがったとしても、もとを辿るとすべて植物に行きつくことに気づかせることができたのではないかと思います。